

高橋京子：培養心筋細胞に対する和漢薬の作用(II)，
—アドリマイシンの心毒性に対する和漢薬の作用
について—。日本生薬学会第33回年会，1986，10，
埼玉。

19) 葉 加南，馬 永華，服部征雄，難波恒雄，
野村靖幸，倉茂洋一：杜仲葉エキス長期投与のラッ
ト肝組織への影響。日本生薬学会第33回年会，1986，
10，埼玉。

20) 王 璇，垣内信子，服部征雄，難波恒雄，奥
田拓男：タンニンと核酸の相互作用。日本生薬学会
第33回年会，1986，10，埼玉。

21) 舒 躍中，服部征雄，難波恒雄，小橋恭一，
影井克彦，福山恵一，月原富武：腸内細菌による和
漢薬成分の代謝(第12報)—Paeoniflorin 代謝物の
構造について—。日本生薬学会第33回年会，1986，
10，埼玉。

22) 田沢賢次，山本克弥，霜田光義，広川慎一
郎，藤巻雅夫，難波恒雄，Upali Pilapitiya：クシャ
ラ・ストラーその試みと臨床成績について—Clinical
Study of Anal Fistula cured by Kshara Sutra.
アーユルヴェーダ研究会第8回研究総会，1986，11，
東京。

23) 田沢賢次，Upali Pilapitiya：痔瘻手術にお
けるインド伝統医学(アユルベダー)の今日的紹
介。第41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

24) 田沢賢次，藤巻雅夫，難波恒雄，Upali Pila
pitiya：クシャラ・ストラーによる痔瘻の治療—
インド伝統医学アユルヴェーダの治療から—。第
41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

25) 山本克弥，霜田光義，広川慎一郎，真保
俊，田沢賢次，藤巻雅夫，Upali Pilapitiya，難波恒
雄：痔瘻における Ayurvedic treatment の経験。第
41回日本大腸肛門病学会，1986，11，京都。

26) 鶴居恂輔，宮地久美：飽和脂肪酸，不飽和
脂肪酸および不飽和アルコール類の抗 *Streptococcus*
mutans 作用。富山県家庭薬開発研究会シンポジウ
ム，1986，11，富山。

27) 小橋恭一，赤尾光昭，赤尾泰子，服部征雄，
難波恒雄：腸内菌による生薬成分の代謝。第7回理
研腸内フローラシンポジウム，1986，12，東京。

◆ その他

1) 難波恒雄，垣内信子，服部征雄：生薬分析シ
リイズ，LC/MS の最近の応用例について。
PHARM TECH JAPAN (ファームテクジャパン)
2(1)：31—39，1986。

2) 難波恒雄：麻子仁，薏苡仁。漢方製剤の知
識(III)：1—4，70—73，1986。

3) 難波恒雄：日本薬用植物誌(26) オキナグ
サ。和漢薬 393：1—2，1986。

4) 難波恒雄：日本薬用植物誌(27) カラマツソ
ウ。和漢薬 394：1—3，1986。

5) 難波恒雄：日本薬用植物誌(28) アケビ。
和漢薬 395：6—8，1986。

6) 難波恒雄：日本薬用植物誌(29) ムベ。和
漢薬 396：4—5，1986。

7) 難波恒雄：熊胆・肝臓病の良薬。『はいち』2：
2—3，1986。

8) 難波恒雄：日本薬用植物誌(30) オオツヅラ
フジ。和漢薬 398：6—9，1986。

9) 難波恒雄：日本薬用植物誌(31) アオツヅラ
フジ。和漢薬 399：6—8，1986。

10) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(1)。和
漢薬 399：1—4，1986。

11) 難波恒雄，服部征雄：生薬分析シリーズ，固
定化酵素カラムを用いた高速液体クロマトグラフ
ィーによる各種動物胆中の遊離型抱合型胆汁酸の一斉
分析。PHARM TECH JAPAN(ファームテクジャ
パン) 2(9)：35—43，1986。

12) 御影雅幸：和漢薬調査雑感。和漢薬
400：171—173，1986。

13) 服部征雄：有機化学と生化学の橋渡し。フ
ァルマシア 22(10)：1101，1986。

14) 難波恒雄：日本薬用植物誌(32) ナンテン。
和漢薬 401：1—3，1986。

15) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(2)。和
漢薬 401：5—8，1986。

16) 難波恒雄：日本薬用植物誌(33) メギ。和
漢薬 402：1—3，1986。

17) 御影雅幸：ヒマラヤトレッキング(3)。和
漢薬 402：7—9，1986。

生 物 試 験

教 授 野 村 靖 幸
助 教 授 渡 邊 裕 司
助 手 金 子 周 司
文部技官 小 西 理 佐

◆ 原 著

1) Arima T., Samura N., Nomura Y. and
Segawa T. : Comparison of effects of tiapride and
sulpiride on D-1, D-2, D-3 and D-4 subtypes of
dopamine receptors in rat and bovine caudate
nucleus membranes; Jpn. J. Pharmacol. 41 :

419—423, 1986.

2) Kitamura Y. and Nomura Y.: Enhancement of [³H]clonidine binding to rat cerebral synaptic membranes by treatment with arachidonic acid, prostaglandin (PG) D₂, PGE₂ and PGF₂α; Jpn. J. Pharmacol. **42**: 321—324, 1986.

3) Arima T., Sagawa T. and Nomura Y.: Influence of pertussis toxin on guanine nucleotide effects on adenylate cyclase in rat atrial membranes; Life Sci. **39**: 2429—2434, 1986.

4) 難波恒雄, 服部征雄, 葉加南, 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 小泉保, 片山和憲, 爐焯: 杜仲葉の研究(1)水抽出画分の一般薬理作用. 和漢医薬学会誌 **3**: 89—97, 1986.

5) Watanabe H. and Taniguchi M.: Effects of subclonic treatment with methamphetamine of apomorphine-induced changes in locomotor activity in mice; Jpn. J. Pharmacol. **40**: 135—187, 1986.

6) Watanabe H., Hiyama Y., Suda H., Sekihara S. and Terasawa K.: Functional compensation by transplantation of cell suspensions of embryonic mesencephalon into the striatum of rats with 6—hydroxydopamine lesions; Jpn. J. Pharmacol. **40**: 591—593, 1986.

7) Watanabe H., Watanabe K., Shimadzu M., Kikuchi T. and Liu Z.: Antiulcer effect of steroidal alkaloids extracted from *Pachysandra terminalis*; Planta Medica 1986, 56—58.

8) Watanabe H. and Uramoto H.: Caffeine mimics dopamine receptor agonists without stimulation of dopamine receptors; Neuropharmacol. **25**: 577—581.

9) Hagiwara M., Watanabe H., Kanaoka R. and Watanabe K.: Influence of clonidine and a new related imidazoline derivative (tizanidine) on rat gastric mucosa; Pharmacol. **32**: 109—113, 1986.

10) Kaneko S., Mori A., Tamura S., Satoh M. and Takagi H.: Intracerebroventricular administration of angiotensin II attenuates morphine-induced analgesia in mice; Neuropharmacol., **24**: 1131—1134, 1985.

◆ 総 説

1) 渡邊裕司, 檜山幸孝: レボドパの毒性と副作用. 薬局 **37**: 35—37, 1986.

◆ 学会報告

1) 野村靖幸, 金子周司, 加藤憲一, 杉山博之, 山岸俊一: ラット脳 mRNA により *Xenopus* 卵母細胞に発現したアセチルコリンおよびセロトニン反応の共通性. 第59回日本薬理学会総会, 1986, 4, 新潟.

2) 野村靖幸, 東田道久: NG108—15細胞におけるヒスタミンのCa²⁺動態およびフォスファチジルイノシトール代謝回転に及ぼす影響. 第59回日本薬理学会総会, 1986, 4, 新潟.

3) 渡邊裕司: ラットの運動量および脳ドーパミン代謝に対する老化の影響. 第59回日本薬理学会総会, 1986, 4, 新潟.

4) 小沢孝一郎, 野村靖幸, 瀬川富朗: ラット脳におけるヒスタミンH₂受容体を介するシナプス膜リン脂質のメチル化促進作用. 第59回日本薬理学会総会, 1986, 4, 新潟.

5) 難波恒雄, 服部征雄, 葉加南, 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 小泉保, 片山和憲, 爐焯: 日本産杜仲葉水抽出画分の降圧作用および中枢抑制作用に関する薬理学的研究. 第106回日本薬学会年会, 1986, 4, 千葉.

6) 金子周司, 加藤憲一, 杉山博之, 山岸俊一, 野村靖幸: ラット脳 mRNA により *Xenopus* 卵母細胞に発現したアセチルコリンおよびセロトニン反応: イノシールリン酸とCa²⁺の関与. 第69回日本薬理学会近畿部会, 1986, 6, 名古屋.

7) 野村靖幸: 脳 GTP 蛋白の機能—シナプス膜と卵母細胞再構成系での解析. 第8回中部日本神経精神薬理研究会, 1986, 7, 富山.

8) 渡邊裕司, 関原俊一, 須田浩守, 野村靖幸: 小動物のドーパミン自己受容体機能に対するD—1およびD—2受容体遮断薬の影響. 第8回中部日本神経精神薬理研究会, 1986, 7, 富山.

9) 東田道久, 野村靖幸: 培養 NG108—15細胞のCa²⁺動態とイノシトールリン脂質代謝に及ぼす histamine の影響. 第8回中部日本神経精神薬理学会, 1986, 7, 富山.

10) 齋尚斌, 川田恵子, 北村佳久, 野村靖幸: ラット大脳皮質切片からの [³H] noradrenaline 遊離へのアドレノセプター・G蛋白・アデニル酸シクラーゼ系の関与と加齢変化. 第8回中部日本神経精神薬理学会, 1986, 7, 富山.

11) 有馬隆, 野村靖幸, 瀬川富朗: ラット線条体膜アデニル酸シクラーゼ活性調節機構と発育, 加齢変化. 第8回中部日本神経精神薬理学会, 1986, 7, 富山.

12) 東田道久, 野村靖幸: Histamine 受容体情

報伝達機構の分子薬理学的研究。第6回ヒスタミンレセプター研究会, 1986, 7, 京都。

13) 加藤憲一, 北村佳久, 金子周司, 野村靖幸: ラット脳 mRNA により *Xenopus* 卵母細胞に発現したアセチルコリンおよびセロトニン反応: GTP 結合蛋白の発現と関与。第37回日本薬理学会北部会, 1986, 8, 札幌。

14) 関原俊一, 渡邊裕司, 野村靖幸: 無拘束ラットの線条体内透析法によるドーパミンおよび代謝産物の測定。第37回日本薬理学会北部会, 1986, 8, 札幌。

15) 野村靖幸, 金子周司, 北村佳久, 東田道久, 難波恒雄, 服部征雄, 葉加南: 杜仲葉水抽出画分のラット脳および心臓レセプター, アデニル酸シクラーゼ系への作用。第3回和漢医薬学会, 1986, 8, 東京。

16) 木村正康, 鈴木潤, 三浦圭子, 渡邊裕司: 麝香成分 muscone の鎮静作用。第3回和漢医薬学会, 1986, 8, 東京。

17) 東田道久, 古川留里, 野村靖幸: 各種生薬熱水抽出画分の培養 NG108—15細胞のアデニル酸シクラーゼ系への作用。第3回和漢医薬学会, 1986, 8, 東京。

18) 渡邊裕司, 関原俊一, 野村靖幸: 無拘束ラットの線条体内透析法を利用した methamphetamine によるドーパミン遊離作用の解析。第16回日本神経精神薬理学会, 1986, 9, 久留米。

19) 葉加南, 馬永華, 服部征雄, 難波恒雄, 野村靖幸, 倉茂洋一: 杜仲葉エキスを長期投与のラット肝組織への影響。第33回日本生薬学会, 1986, 10, 埼玉。

20) 北村佳久, 野村靖幸: 中枢アドレノセプター・G蛋白の脱共役—N—エチルマレイミドの効果。第29回日本神経化学会, 1986, 10, 岡山。

21) 東田道久, 野村靖幸: 培養 NG108—15細胞の分化と増殖: アデニル酸シクラーゼ系およびプロテインキナーゼC活性化薬の影響。第29回日本神経化学会, 1986, 10, 岡山。

22) 野村靖幸, 瀬川富朗: 脳シグナル受容伝達系機能とエージング。第15回薬物活性シンポジウム, 1986, 11, 米子。

23) 齋尚斌, 北村佳久, 野村靖幸: β レセプター・Ns・アデニル酸シクラーゼ系刺激によるラット脳切片からのノルアドレナリン遊離と老化。第70回日本薬理学会近畿部会, 1986, 11, 京都。

24) 野村靖幸: 細胞の刺激応答機構と加齢。日本学術会議生物系薬学連絡委員会主催「情報伝達と細

胞応答—最近の話題に関するシンポジウム」, 1986, 11, 広島。

25) 野村靖幸: 脳情報伝達—遺伝子移入再構成系による解析。文部省科研費総合(B)班主催「トランスメンブレンコントロール」, 1986, 12, 東京。

臨 床 利 用

教 授	大 浦 彦 吉
助 教	日 合 奨
助 手	横 澤 隆 子
助 手	長 沢 哲 郎

◆ 原 著

1) Yokozawa T., Zheng P. D., Oura H. and Koizumi F.: Animal model of adenine-induced chronic renal failure in rats. *Nephron* **44**: 230—234, 1986.

2) Yokozawa T., Chung H. Y. and Oura H.: Effect of extract from *Salviae Miltiorrhizae Radix* on the urinary urea, creatinine, and electrolyte excretion in uremic rats. *J. Med. Pharm. Soc. for WAKAN-YAKU* **3**: 10—15, 1986.

3) 鄭 平東, 横澤隆子, 大浦彦吉, 中田瑛浩: 慢性腎不全ラットの腎組織血流量, 血圧, 並びにホルモンに対する温脾湯の効果。和漢医薬学会誌 **3**: 37—44, 1986.

4) 鄭 平東, 横澤隆子, 大浦彦吉: 慢性腎不全ラットの腎外性ホルモンに対する温脾湯の効果。和漢医薬学会誌 **3**: 65—70, 1986.

5) Chung H. Y., Yokozawa T. and Oura H.: Effect of extract from *Salviae Miltiorrhizae Radix* on uremic rats. *Chem. Pharm. Bull.* **34**: 3818—3822, 1986.

6) Yokozawa T., Miyakawa S., Oura H., Kaneko K. and Nishioka I.: Effect of extract from *Rhei Rhizoma* on dietary hyperazotemia in rats. *Chem. Pharm. Bull.* **34**: 4233—4237, 1986.

7) 鄭 平東, 横澤隆子, 大浦彦吉: 慢性腎不全ラットに対する温脾湯の効果 —腎不全惹起後の影響について—。和漢医薬学会誌 **3**: 83—88, 1986.

8) Yokozawa T., Zheng P. D., Chung H. Y., Fukumoto J. and Oura H.: Effect of red ginseng powder in rats with chronic renal failure. *J. Med. Pharm. Soc. for WAKAN-YAKU* **3**: 136—142, 1986.

9) Yokozawa T., Suzuki N., Oura H., Nona-